



# あかね文庫お話しの会 おひさまだより



## 絵本アンケート

“ボランティアの方に  
ききました”

☀ 岩木さん

『クレヨン王国の十二月』

小学校に入学し、学校の図書館で借りて自分で読みました。それまでは絵本を主に読んでいたのですが、学校に入って「字の多い本」を読むきっかけになった本です。  
大晦日の夜、女の子が目を見ますと、枕元の12色のクレヨンが会議を開いていました。クレヨン王国の王さまが家出をしたのです。女の子は王妃と一緒に王さまを探しに出かけます。1月の白い国から12月の灰色の国までの女の子の旅が、まるで自分も一緒に旅しているように感じられ、とてもおもしろかったです。  
この本は今もシリーズでたくさんでています。おとなになった現在は、その頃と同じ年頃のわが子ともう一度一緒に読み返しています。



## えほんの紹介 クレヨン王国の十二月

福永令三／文 椎名 優／絵  
講談社 青い鳥文庫

ちらかしぐせ、おねぼう、うそつき、へんしよく...。「王妃の悪いくせがなおるまで帰らない」と書きおきを残して、クレヨン王国の王さまが家出をしてしまいました。そこでユカは王妃とともに王さまを探す旅にでます。一月の白い国では、雪だるまコンクールに参加した時の失敗で「ちらかしぐせ」に気づく王妃。二月の黄色の国ではおねぼうしたためにロケットにの乗りそこねたり、三月のピンクの国ではうそつきのしるしをつけられたり...。こうして十二月の国までの旅をしていくうちに、王妃の悪いくせが一つずつ直っていきます。  
さあ、王妃とユカは無事王さまを見つけ出すことができるでしょうか？そしてクレヨン王国に新しい幸せな年を迎えることができるでしょうか？

(ひみつ...この冒険のお話は、実は、大晦日の夜にユカが見た夢のお話なんですって！)

## 小さなおともだち

笑顔をおいありがとう！

HKくんは電車のおもちゃが大好きです。HKくんのために、プレイルームいっぱい電車のレールをつなげようと、お母さんががんばっています。床にちょこんと座ってにこにこ見ているHKくん。お母さん、ガンバレ！ その間に、電車の絵本を開いて誘って見ましたが、実物の電車とお母さんのがんばりには敵いません。ふられてしまいました。でも、ベッドで絵本をみってくれる時は、一冊読み終わる度ににっこりと笑顔を見せてくれます。こちらもうれしくなって「もう一冊見る？」とすすめます。私たちのささやかな活動もこのような一人ひとりの笑顔に支えられています。